

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

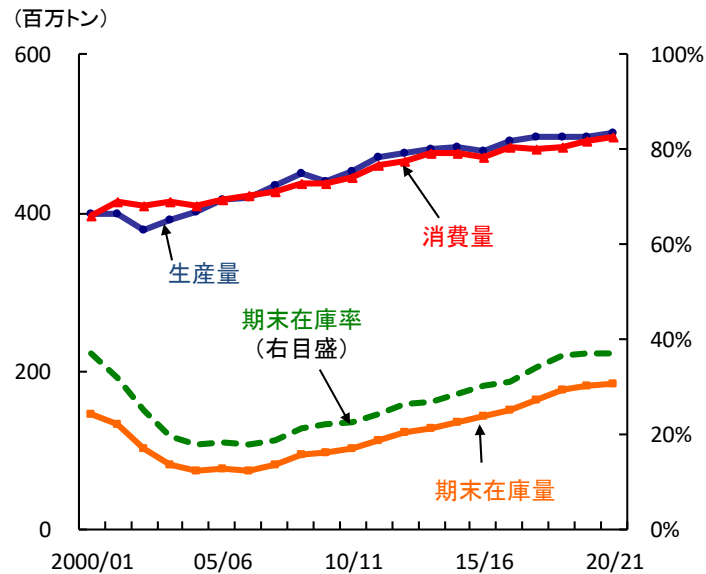
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、ブラジル等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・ブラジルで上方修正も、タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2020.8.12）をもとに農林水産省にて作成

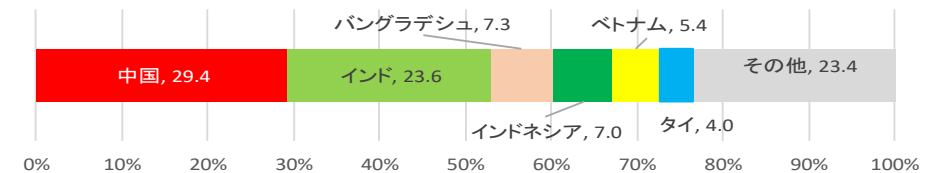
◎世界のコメ需給

（単位：百万精米トン）

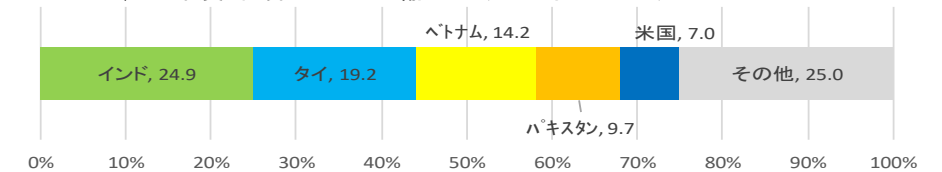
年 度	2018/19	2019/20 （見込み）	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）
生 産 量	496.7	495.7	500.1	▲ 2.6	0.9
消 費 量	484.0	490.9	496.5	▲ 1.9	1.2
輸 出 量	43.7	41.5	44.3	▲ 0.6	6.8
輸 入 量	43.8	39.6	42.0	-	6.2
期末在庫量	176.8	181.7	185.2	▲ 0.6	1.9
期末在庫率	36.5%	37.0%	37.3%	0.0	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2020）

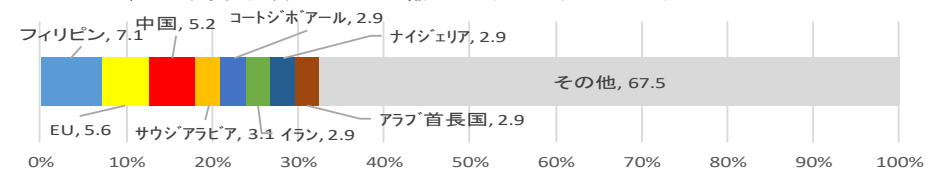
○ 2020/21 年度 世界のコメの生産量（500.1 百万トン）（単位：%）



○ 2020/21 年度 世界のコメの輸出量（44.3 百万トン）



○ 2020/21 年度 世界のコメの輸入量（42.0 百万トン）



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 >

【生産動向】米国農務省（USDA）によれば、8月の作柄調査を反映し、前月予測から中・短粒種が上方修正されたが、長粒種が下方修正されたため、2020/21年度の生産量は下方修正された。対前年度比 18.3%増の 6.9 百万トンの見込み。このうち、中・短粒種の実産量は全体の約3割を占める。

現在、ルイジアナ州やテキサス州で収穫が開始され、「Crop Progress」(2020.8.17)によれば、収穫進捗率は 13%(前年度同期 9%、過去5年平均 13%)となっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出力は、長粒種に関し、南米諸国の輸出競争の激化から、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度 4.8%増の 3.1 百万トンの見込み。一方、輸入量は、前年度の輸入ペースの伸びを反映し、前月予測からわずかに上方修正されたが、前年度より 2.6%減の 1.1 百万トンの見込み。

< インド >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度 0.1%増の 118.0 百万トンの見込み。インド農業省によれば、モンスーンによる降雨に恵まれ、カリフ米の作付けが進展し、8月7日時点の作付済面積は 32.2 百万ヘクタールと前年同期（27.4 百万ヘクタール）を 17.4%上回り、順調に生育している。

インド農業省によれば、サバクトビバッタによるコメへの目立った被害についてはほとんど報告されていない。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出力は、前月予測から変わらず、対前年度 8.9%増の 11.0 百万トンとなる見込み。インド商工省によれば、2020年4月の輸出力は 85 万トンで前年同期比 15%の増加となった。

また、インド食料公社によれば、2020年6月のコメの政府備蓄量は 27.4 百万トンで、前年同時期を下回ったものの、4月1日時点の目標備蓄量 13.6 百万トンを大幅に上回った。

コメー米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米のコメ生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.1	5.9	6.9	▲ 0.1	18.3
消 費 量	4.6	4.5	4.6	-	0.4
輸 出 量	3.0	2.9	3.1	▲ 0.0	4.8
輸 入 量	0.9	1.2	1.1	0.0	▲ 2.6
期末在庫量	1.4	1.0	1.4	0.0	43.9
期末在庫率	18.8%	13.1%	18.5%	0.3	5.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.18	1.00	1.16	-	16.0
単収(もみt/ha)	8.62	8.38	8.52	▲ 0.10	1.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」12 August 2020)

コメーインド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	116.5	117.9	118.0 (119.5)	-	0.1
消 費 量	99.2	102.3	104.0 (105.3)	-	1.6
輸 出 量	10.4	10.1	11.0 (10.9)	-	8.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	29.5	35.0	38.0 (113.1)	-	8.6
期末在庫率	26.9%	31.1%	33.0% (97.4%)	-	1.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.16	43.60	44.00 (43.90)	-	0.9
単収(もみt/ha)	3.96	4.06	4.02 (2.72)	-	▲ 1.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」12 August 2020)
IGC 「Grain Market Report (23 July 2020)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、6月から7月にかけての長江流域の降雨過多と洪水による被害から、前月予測より2.0百万トン下方修正され、147.0百万トンの見込み。

中国気象台の農業気象週報(8月7日)によれば、二期作早稲は収穫が終了。二期作晩稲は湖南、江西、福建、浙江等地区的二期作晩稲の大部は活着から分けつ期に入っており、一部は節間伸長期に入っている。全国二期作晩稲の一、二類の苗の割合は11%と88%で、前年同期(19%、81%)比、一類は8ポイント低下し、二類は7ポイント上昇している、

黒竜江、吉林、遼寧、河北、寧夏等地区的の一期作稲は穂孕み・出穂期に入っており、江蘇、浙江、福建、安徽、湖北等地区的の一期作稲は分けつから穂孕み期に入り、一部は出穂期に入っている 全国の一期作稲の一、二類の苗の割合はそれぞれ28%と72%で、前年同期(27%、72%)比、一類は1ポイント向上し、二類は同水準を維持した。

中国国家糧油情報センター(2020.8)によれば、2020/21年度の実産量は、長江の洪水被害により前月から1百万もみトン下方修正され、210百万もみトンの見込み。

国家統計局の「早期米数量報告」(2020.8.19)によれば、全体の作付面積の15%程度を占める早期米の実産量については、洪水被害により単収が前年度より低下するものの、作付時期の天候が良かったこと等から作付面積が増加したため、前年度より3.9%増の2,729万もみトンとなっている。

農業農村部によれば、洪水による被害を緩和させるため、被災地での晩稲の例年より早期の作付けを指導している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の実輸出量は、前月予測から0.2百万トン下方修正され、対前年度比11.5%増の2.9百万トンの見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(7月)によれば、7月の早期インディカ、晩期インディカ、ジャポニカの卸売価格(精米)は、それぞれ3,680元/トン(6月3,680元/トン)、4,080元/トン(同4,140元/トン)、4,460元/トン(4,340元/トン)でジャポニカを除き、価格は落ち着いた動きを見せている。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21 (単位:百万精米トン)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	148.5	146.7	147.0 (148.0)	▲ 2.0	0.2	
消 費 量	142.9	145.0	146.3 (146.0)	▲ 0.8	0.9	
輸 出 量	2.8	2.6	2.9 (3.4)	▲ 0.2	11.5	
輸 入 量	3.2	2.4	2.2 (2.3)	-	▲ 8.3	
期末在庫量	115.0	116.5	116.5 (113.1)	▲ 1.0	0.0	
期末在庫率	78.9%	78.9%	78.1% (75.7%)	▲ 0.1	▲ 0.8	

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.19	29.69	29.80 (30.00)	▲ 0.40	0.4
単収(もみt/ha)	7.03	7.06	7.05 (4.93)	-	▲ 0.1

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」12 August 2020
IGC「Grain Market Report (23 July 2020)」(単収は精米t/ha)

※ 一類苗: 生育が正常な苗 二類苗: 通常の苗よりやや小さい苗
三類苗: 病気の苗、弱い苗

< タイ >

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は降雨不足による乾季米向けの貯水量の制約から作付面積が減少し、前月予測から0.4百万トン下方修正され、20.0百万トンの見込み。前年と比べて、7月下旬までに降雨があったため、特に北東部で干ばつであった前年度と比べて雨季米の作付けが進展し、タイ全土で活着期を迎えている。

また、2019/20年度(2020年1月～2020年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく18.0百万トンの見込み。タイ農業・協同組合省の7月23日時点の見通しによれば、同年度の生産量は、前年度より降雨があるとの見通しから雨季作の生産量が4月時点(24.9百万トン)から上方修正され、25.2百万トン、乾季作は変わらず4.1百万トンで計29.3百万トン(粳ベース)の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、8.5百万トンの見込み。また、2019/20年度の輸出量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され6.5百万トンの見込み。タイ米輸出協会によれば、同年度はパーツ高や新型コロナウイルスの影響による需要減少等で輸出量が前年度より減少した。

2020年1月から6月までの輸出量は、前年度から33.8%減少の288.6万トンで、輸出先国は、米国38.7万トン、南アフリカ26.3万トン、アンゴラ22.5万トンの順。国別には、米国等への輸出量が増加している。

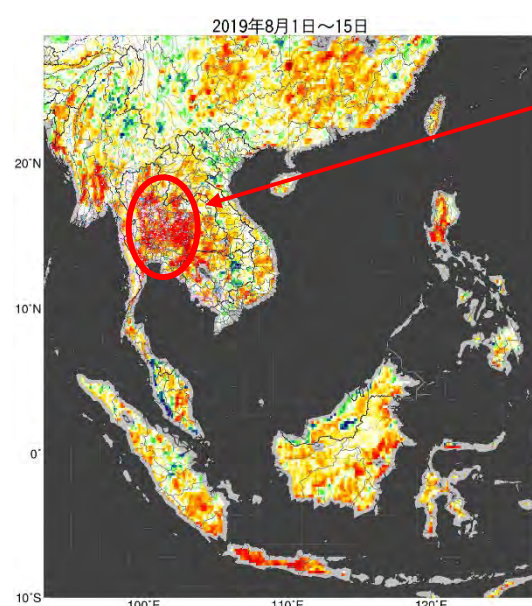
コメ・タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.3	18.0	20.0	(20.0)	▲ 0.4	11.1
消費量	11.5	11.8	11.8	(11.5)	-	-
輸出量	7.6	6.5	8.5	(8.7)	▲ 0.5	30.8
輸入量	0.3	0.3	0.2	(0.3)	-	▲ 20.0
期末在庫量	4.5	4.5	4.4	(4.7)	0.2	▲ 2.2
期末在庫率	23.8%	24.5%	21.6%	(23.2%)	1.5	▲ 2.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.83	9.96	10.80	(10.73)	▲ 0.10	8.4
単収(もみt/ha)	2.85	2.74	2.81	(1.86)	▲ 0.03	2.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」12 August 2020
IGC「Grain Market Report (23 July 2020)」(単収は精米t/ha)



土壌水分(平年対比)

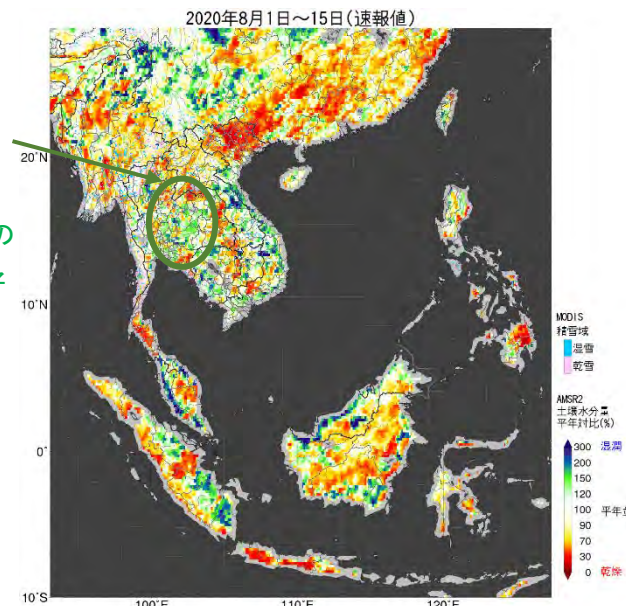
左図 2019年8月前半

右図 2020年8月前半

前年と比べ8月前半の
タイの土壌水分は良好

出典: JAXA

JASMAI プロダクト



<ベトナム>

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前月予測から0.2百万トン下方修正され、27.0百万トンの見込み。

同年度は、秋冬作の作付けが7月に終了し、南部では42.8%が幼穂分化期から出穂期を迎えている。収穫は10月頃から開始される見込み。

また、同年度の生産量の減少要因は、①コメから利益率が高くより水を使用しない作物への作付転換、②圃場への海水進入による収穫面積の減少、③メコン川上流の中国、ラオスの水力発電用ダム建設による灌漑用水の制約等による収穫面積の減少である。

現在生産が行われている2019/20年度(2020年1月～2020年12月)の生産予測は、前月から下方修正され、27.2百万トンの見込み。

ベトナム気象局によれば、7月から8月にかけて全国的に例年より高温となっている。そのため、北部の雨季作や南部の夏秋作の作付けが遅れた。

7月中旬現在の生育状況は、北部の雨季作の作付けは遅れたが、生育状況は良好で、現在分けつ期を迎えている。南部を中心に夏秋作のうち早播き稲の90%が収穫された。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測から0.1百万トン下方修正され、6.3百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2019/20年度は、コメの輸出枠が撤廃された2020年5月は輸出量が前年同時期を大幅に上回ったものの、6月以降減少し、7月は62.5万トンと前年同時期の76.7%となった。2020年1月～7月の輸出量は、400.1万トンと前年度同期(397.9万トン)を上回っている。輸出先国は、フィリピン149.6万トン(シェア37.4%)、中国49.3万トン(12.3%)、マレーシア41.3万トン(10.3%)の順。

ベトナム食糧協会によれば、8月のインディカ精米(砕精米5%)は468ドル/トンで7月(448ドル/トン)から上昇し、一時的にタイ産米の価格を上回った。IGC(国際穀物理事会)によれば、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念による国内価格の上昇が要因とみられる。

なお、本年8月からのEUとの自由貿易協定発効により、EU向けコメ輸出枠が設定(毎年8万トン)された。

コメ・ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.3	27.2	27.0 (28.4)	▲ 0.2	▲ 0.6
消費量	21.2	21.1	21.2 (22.5)	-	0.5
輸出量	6.6	6.6	6.3 (6.6)	▲ 0.1	▲ 4.5
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.1	1.0	0.9 (2.5)	▲ 0.1	▲ 10.5
期末在庫率	4.0%	3.4%	3.1% (8.5%)	▲ 0.4	▲ 0.3

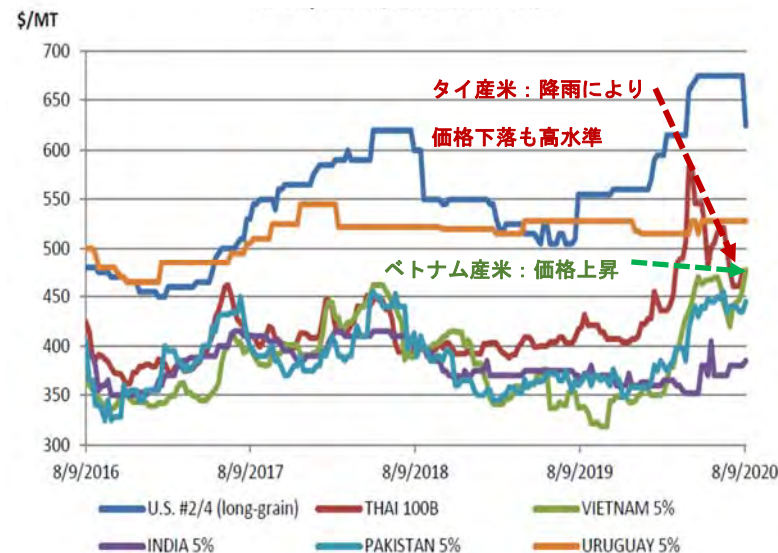
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.54	7.47	7.40 (7.47)	▲ 0.10	▲ 0.9
単収(もみt/ha)	5.80	5.82	5.84 (3.81)	0.04	0.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」12 August 2020
IGC「Grain Market Report (23 July 2020)」(単収は精米t/ha)

図: 過去4年間の主要コメ輸出国の週別価格の推移

ベトナム産米の価格がタイ産米を上回る



出典: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2020.8.12) を農林水産省で加工

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

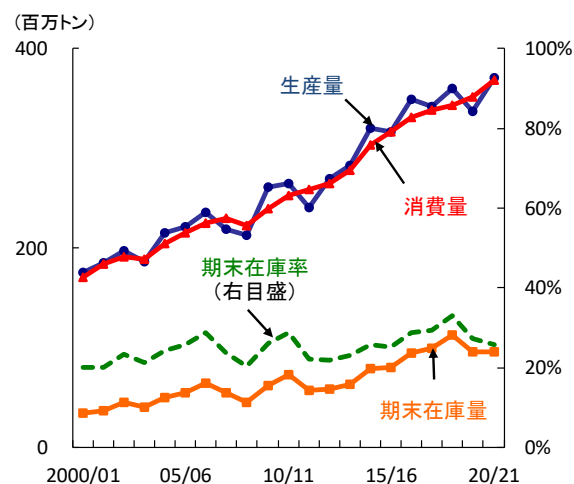
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ブラジル等で下方修正も、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・米国、ブラジル、アルゼンチン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2020.8.12）をもとに農林水産省で作成。

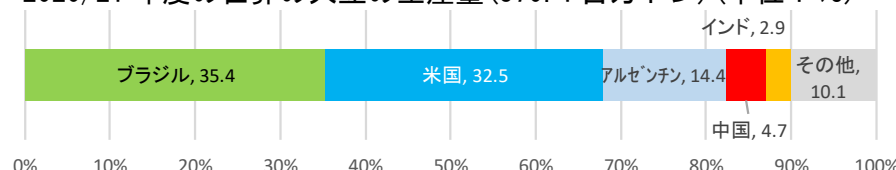
◎世界の大豆需給

（単位：百万トン）

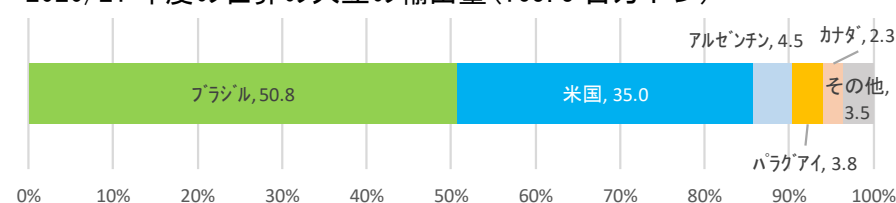
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	360.2	337.3	370.4	7.9	9.8
消 費 量	342.6	351.9	367.9	4.3	4.5
うち搾油用	297.3	308.0	320.1	4.5	3.9
輸 出 量	148.4	164.6	165.5	3.9	0.5
輸 入 量	144.6	162.3	162.5	4.5	0.1
期末在庫量	112.9	95.9	95.4	0.3	▲ 0.5
期末在庫率	32.9%	27.2%	25.9%	▲ 0.2	▲ 1.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 August 2020）

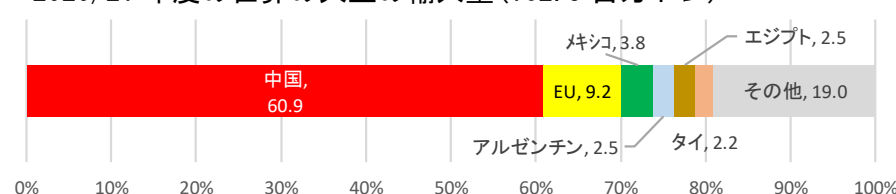
○ 2020/21 年度の世界の大豆の生産量 (370.4 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸出量 (165.5 百万トン)



○ 2020/21 年度の世界の大豆の輸入量 (162.5 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2020/21 年度の生産量は、生育期の天候に恵まれ単収が史上最高へ上方修正されたことから、前月予測から 7.9 百万トン上方修正され、前年度より 24.6%増の 120.4 百万トンの見込み。「Crop Progress」(2020.8.17)によると、8 月 16 日現在で主要 18 州における開花進捗率は 96%と、前年度同期（88%）及び過去 5 年平均（94%）より進んでいる。着莢進捗率は 84%と、前年度同期（64%）及び過去 5 年平均（79%）より進んでいる。また、作柄評価は、良からやや良が 72%と前年度同期（53%）を上回っている。なお、8 月中旬に中西部で発生した暴風雨（Derecho）の影響は 9 月以降の需給報告に反映されるとみられる。

【需要動向】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、畜産向けの大豆需要が増加傾向であることを見込み、前月から 0.7 百万トン上方修正され、前年度より 4.9%増の 63.1 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】2020/21 年度の輸出量は、中国への販売状況の改善と輸出価格の低下による輸出競争力の高まりから前月から 2.0 百万トン上方修正され、前年度より 28.8%増の 57.8 百万トンの見込み。輸出検証高（2020 年 1 月 2 日～8 月 6 日）は、18.4 百万トンであり、内訳は中国（4.3 百万トン）、メキシコ（2.6 百万トン）の順。

大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	120.5	96.7	120.4	7.9	24.6
消 費 量	60.4	60.2	63.1	0.7	4.9
うち搾油用	56.9	58.8	59.3	0.5	0.9
輸 出 量	47.7	44.9	57.8	2.0	28.8
輸 入 量	0.4	0.4	0.4	-	-
期末在庫量	24.7	16.7	16.6	5.0	▲ 0.8
期末在庫率	22.9%	15.9%	13.7%	3.9	▲ 2.2

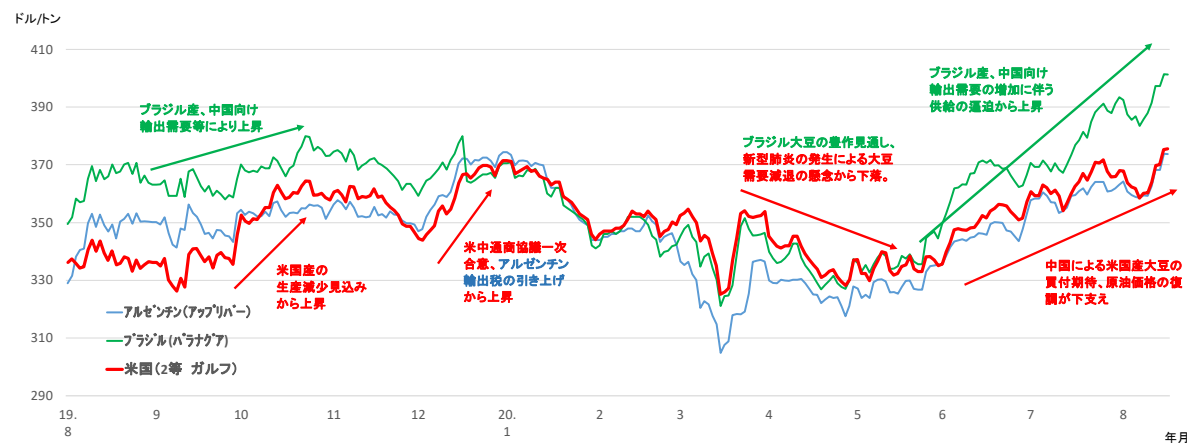
(参考)

収穫面積(百万ha)	35.45	30.33	33.60	-	10.8
単収(t/ha)	3.40	3.19	3.58	0.23	12.2

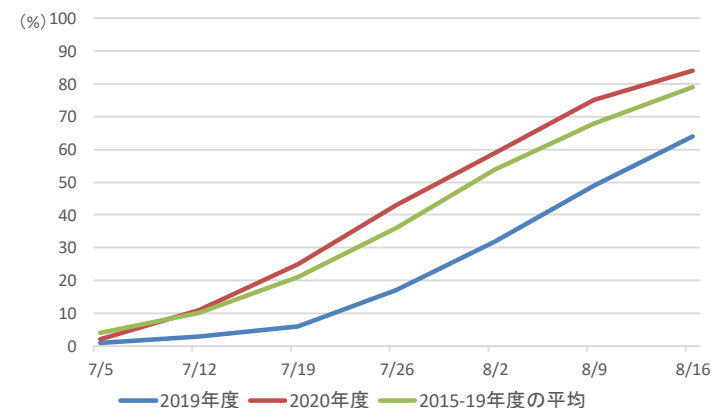
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 August 2020)

図：主要 18 州における着莢進捗率の推移

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格（FOB）の推移



資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成。



資料: USDA 「Crop Progress」

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積の増加から前年度より4.0%増の131.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

9月以降に作付けが開始される。なお、2019/20年度の収穫は、終了している。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月から0.4百万トン下方修正されたものの、前年度より1.6%増の47.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、中国の輸入需要増により前月から1.0百万トン上方修正されたものの、期首在庫の減少による供給量の制約から史上最大の輸出となった前年度より10.2%減の84.0百万トンの見込み。ただし、世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国を維持する見込み。

ブラジル貿易統計によれば、3月以降中国向け輸出が急増しており、2020年1～7月の輸出量は69.7百万トンで、前年同期比1.4倍となり、この時期としては史上最大となっている。内訳は、1位が中国で50.5百万トンと全体の72%を占めている。なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.8.11)によれば、輸出量は今後数か月間伸び続ける見通し。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の収穫は2月以降収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培。

2019/20年度	2019年												2020年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオグランデ・ド・スル州等												作付 4.2(百万ha)								
冬とうもろこし	マトグロソ州、パラナ州等												作付 14.3(百万ha)								
大豆	作付 36.9(百万ha)												収穫 120.9(百万t)								

資料: Conab穀物レポート(2020.8.11)

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

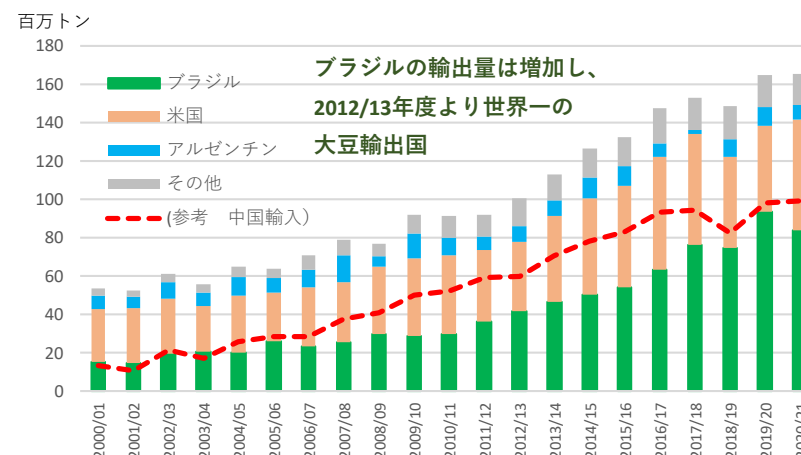
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	119.0	126.0	131.0 (130.7)	-	4.0
消 費 量	44.8	46.5	47.3 (…)	▲ 0.4	1.6
うち搾油用	42.5	44.3	45.0 (…)	-	1.7
輸 出 量	74.6	93.5	84.0 (…)	1.0	▲ 10.2
輸 入 量	0.1	0.3	0.2 (…)	-	▲ 55.9
期末在庫量	32.8	19.1	19.0 (…)	▲ 4.3	▲ 0.5
期末在庫率	27.4%	13.6%	14.5% (…)	▲ 3.3	0.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.90	36.90	38.30 (39.70)	-	3.8
単収(t/ha)	3.31	3.41	3.42 (3.29)	-	0.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(17 July 2020)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2020.8.12)のデータをもとに農林水産省にて作成。

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より7.6%増の53.5百万トンの見込み。11月以降に作付けが開始される。

なお、2019/20年度の収穫は終了している。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用需要の増加に伴い前年度より5.5%増の50.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、中国向け輸出の期待の高まりから前月から1.0百万トン上方修正されたものの、国内の搾油量の増加に加え、中国向け輸出における米国、ブラジルとの競争から、前年度より21.1%減の7.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、4月以降、中国向け輸出が急増しており、2020年1～6月の輸出量は4.4百万トンで、前年同期より51%増。内訳は、1位が中国3.5百万トン、2位がエジプト44万トンとなっている。

アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019年12月から2020年3月にかけて、2段階で、大豆、大豆油、大豆粕の輸出税を約25%から30%、さらに最大33%へ引き上げた。なお、生産規模ごとに税率が20～33%と細分化され、年間1,000トンを超える生産者は33%課税されることとなった。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	55.3	49.7	53.5 (51.5)	-	7.6
消 費 量	47.5	47.6	50.2 (…)	-	5.5
うち搾油用	40.6	40.5	43.0 (…)	-	6.2
輸 出 量	9.1	9.5	7.5 (…)	1.0	▲ 21.1
輸 入 量	6.4	4.2	4.0 (…)	0.4	▲ 4.8
期末在庫量	28.9	25.7	25.5 (…)	▲ 0.9	▲ 0.8
期末在庫率	51.1%	45.0%	44.2% (…)	▲ 2.4	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.60	16.90	17.30 (16.40)	-	2.4
単収(t/ha)	3.33	2.94	3.09 (3.14)	-	5.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 August 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(17 July 2020)

写真：北部サンタフェ州の大豆保管サイロ
(7月24日撮影)



< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.3%減の17.5百万トンの見込み。なお、中国糧油情報センター（2020.8.3）によれば、7月の産地の東北部の天候は少雨傾向で、一部は干ばつとなったものの、8月上旬の降雨により影響は緩和された。8月上旬現在、東北部では開花～着莢期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、ASFの甚大な影響から回復し、養豚数の増加により大豆粕需要が高まることから前月予測から3.0百万トン上方修正され、前年度より7.6%増の116.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、養豚産業の大豆粕需要の高まりにより前月から3.0百万トン上方修正され、前年度より1.0%増の99.0百万トンの見込み。

中国財政部は、2月14日に、米中通商協議一次合意に伴い、米国産大豆の追加関税30%のうち、2019年9月追加分の5%分を半減させ、追加関税を27.5%まで引き下げた。さらに、財政部は、2月18日、1年間の期限付きで、輸入業者に対して、米国産大豆を始め豚肉、牛肉等の米国産品に関し、追加関税の免除手続きを公表した。

中国の貿易統計によれば、2020年1～6月の輸入量は45.0百万トンと、前年同期比で18%増。内訳は、ブラジル産32.6百万トン（72%）、米国産9.2百万トン（21%）。なお、6月の輸入量は、4、5月に続き、ブラジル産（10.5百万トン）が米国産（0.3百万トン）をさらに大きく引き離れた。今後、米国産大豆の収穫開始に伴い、輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

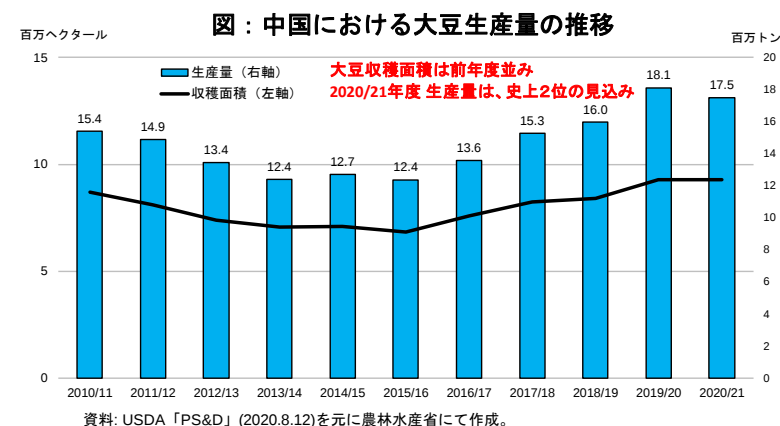
農業農村部「農産品供需形勢分析月報7月号」によると、国内市場の良質食用大豆の供給不足で7月の国内価格は大幅上昇した。

大豆－中国

（単位：百万トン）

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、0はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	16.0	18.1	17.5 (17.2)	－	▲ 3.3
消 費 量	102.0	108.2	116.4 (113.0)	3.0	7.6
うち搾油用	85.0	90.5	98.0 (96.5)	3.0	8.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.2)	－	－
輸 入 量	82.5	98.0	99.0 (96.0)	3.0	1.0
期末在庫量	19.5	27.3	27.3 (16.8)	0.0	－
期末在庫率	19.1%	25.2%	23.4% (14.9%)	▲ 0.6	▲ 1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.41	9.30	9.30 (9.10)	－	－
単収(t/ha)	1.90	1.95	1.88 (1.89)	－	▲ 3.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 August 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(17 July 2020)



< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.3%減の5.8百万トンの見込み。

なお、カナダ統計局「Principal field crop areas」(2020.6.29)によれば、2020/21年度の作付面積は、世界的に油糧種子の在庫が多く、生産者の油糧種子生産への意欲が低下しているため、前年度より11.3%減の2.05百万ヘクタールの見込み。産地のオンタリオ州やマニトバ州ではおおむね天候に恵まれ、順調に生育している。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より9.4%減の3.9百万トンの見込み。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.3	6.0	5.8 (5.9)	-	▲ 3.3
消費量	3.1	2.5	2.5 (2.4)	-	-
うち搾油用	2.1	1.8	1.8 (1.9)	-	-
輸 出 量	5.3	4.3	3.9 (4.1)	-	▲ 9.4
輸 入 量	1.2	0.5	0.6 (0.5)	-	22.2
期末在庫量	0.7	0.4	0.4 (0.3)	-	-
期末在庫率	8.4%	5.9%	6.3% (4.1%)	-	0.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.54	2.30	2.04 (2.05)	-	▲ 11.3
単収(t/ha)	2.86	2.61	2.84 (2.90)	-	8.8

資料: USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 August 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(17 July 2020)

写真: マニトバ州の大豆の生育状況
(8月6日撮影)
順調に生育中



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2020/21年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	20年6月～21年5月	20年9月～21年8月	20年8月～21年7月	20年9月～21年8月
カナダ	20年8月～21年7月			20年8月～21年7月
豪州	20年10月～21年9月		21年3月～22年2月	
EU	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		
中国	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月
ロシア	20年7月～21年6月	20年10月～21年9月		20年9月～21年8月
ブラジル		21年3月～22年2月	21年4月～22年3月	20年10月～21年9月
アルゼンチン	20年12月～21年11月	21年3月～22年2月		20年10月～21年9月
タイ			21年1月～12月	
インド	20年4月～21年3月		20年10月～21年9月	
ベトナム			21年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2020/21年度は、米国の小麦では2020年6月～2021年5月、ブラジルのとうもろこしでは2021年3月～2022年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が 2020 年 8 月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下のとおりです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020年1月31日付けでEUを離脱しました。英国の小麦に関する情報についてはEUの小麦のコーナーで取り扱います。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-6744-2368（直通）
------------	---